

婚活ブームにあっても、未婚率の改善はまだまだ道半ば？

## 「結婚したい」気持ちは底打ちも、肝心の「交際相手なし」は男女とも過去最高

20代女性の結婚意思は強いが、調査以来初めて交際相手なし(63.6%)が30代を上回る  
一方、30代女性では仕事に疲弊感からか、専業主婦や派遣志向が高まる

男性の「草食化」が言われるようになって久しい。今年6月に調査をした青年層の男性の意識でも、「自分は動物的ではなく、どちらかというと植物的」と51.0%が回答。自身の生活を大切にしたい強いマイペース志向を基本に、交友関係、仕事や恋愛、結婚意欲を適度に持っていながらも、交際状況が悪化していることが浮かびあがったが、対して、同世代の女性はどうか。オーネットでは、全国900人の20代・30代未婚女性を対象に、恋愛、結婚に関する意識を調査した。

「婚活ブーム」のポジティブな影響からか、「(いつかは)結婚はする」との回答は71.9%と前回調査から底を打って上昇に転じた。その一方で、彼女らの交際状況は「交際相手はいない」が63.3%と、今春の男性調査同様に、過去最高値(当社調べ)を記録と、恋愛状況は芳しくはない。更に20代未婚女性の63.6%が交際相手のいない状況で、わずかながらではあるが、調査開始以来初めて30代未婚女性(63.1%)を上回るという、新たな傾向を見せている。

彼女らに恋愛観を問うと、「恋人には追いかけるより、追いかけられたい」64.6%、「好きな人から告白されたい」90.4%と回答。実際の交際相手も、72.1%が相手のアプローチから交際を始めており、男性主導の恋愛模様が描かれている。しかし、未婚女性の6割以上は交際相手がないのが現状であり、「身近に気になる人がいても、声をかけられない男性」を45.9%が、また、「女性と一緒に寝ても、何もしない男性」を60.9%もの女性が「受け入れられる」と回答するなど、理想と現実の折り合いをつけ、許容範囲を広げようとしているようだ。

経済環境や社会環境の変化は、彼女らの意識にも少なからず影響を及ぼしており、「自殺を考えたことがある」、「人からペースを崩されたくない」、「不安な気持ちになりやすい」、「大勢というの好きではない」などの回答は男性を上回る。また、社会人経験が長くなる30代女性では、フルタイム就労希望が99年の調査時に比べ12.6%も減少し、専業主婦志向(4.2%増)や派遣就労等の志向(8.4%増)の高まりが目立つ。増える一方の仕事の責任や負荷に耐えかねている女性の姿がうかがえる。

「結婚相手とは運命的な出会いがある」58.6%と半数以上が信じながらも、それがなかなか実現しないなかで、男性の受身でマイペースな恋愛意識をも受け入れようとしている女性の意識が浮かびあがった。

## － 調 査 概 要 －

この資料は、結婚情報サービス「O-net(オーネット)」を運営する、楽天グループの株式会社オーネット(本社:東京都品川区 代表取締役社長:島貫慶太)と楽天リサーチ株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:森 学)が、20代・30代全国の未婚女性計900人を対象に恋愛・結婚意識などについて調査した結果をまとめたものです。

- 調査名 : オーネット「2009年20代・30代未婚女性の意識調査」
- 調査地域 : 全国
- 調査対象 : 2009年9月3日-4日時点で、20歳～39歳迄の結婚経験のない女性
- 調査方法 : 楽天リサーチ株式会社(インターネット調査会社)協力によるクローズ調査
- サンプル数 : 900人(20代女性450人 30代女性450人)
- 調査期間 : 2009年9月3日(木)-9月4日(金)
- 調査主体 : 株式会社オーネット
- 調査協力 : 楽天リサーチ株式会社
- 調査・報告 : 株式会社オーネット 篠塚涼子(サービス部)

※表記の無い場合の単位は%です。調査結果の数値は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計で100%にならないことがあります。

※出版物・印刷物等、本資料をご使用になる場合には、オーネット 広報グループ宛連絡のうえ  
「楽天グループの結婚情報サービス オーネット」調査 と明記ください。

### 調査対象者プロフィール

職業		大学生	短大・高専の学生	専門学校生	予備校生	その他の学生	正規就労者	自営業・自由業	派遣・パート等	アルバイト	無職	求職中	その他
		全体	人	91	0	10	0	5	279	51	165	125	64
	%	10.1	0.0	1.1	0.0	0.6	31.0	5.7	18.3	13.9	7.1	8.9	3.3
20代	人	90	0	8	0	3	117	18	68	79	19	38	10
	%	20.0	0.0	1.8	0.0	0.7	26.0	4.0	15.1	17.6	4.2	8.4	2.2
30代	人	1	0	2	0	2	162	33	97	46	45	42	20
	%	0.2	0.0	0.4	0.0	0.4	36.0	7.3	21.6	10.2	10.0	9.3	4.4

最終学歴		中学	高校	専門学校	短大	大学	大学院	その他
		全体	人	44	205	134	134	348
	%	4.9	22.8	14.9	14.9	38.7	3.7	0.2
20代	人	29	106	55	35	209	16	0
	%	6.4	23.6	12.2	7.8	46.4	3.6	0.0
30代	人	15	99	79	99	139	17	2
	%	3.3	22.0	17.6	22.0	30.9	3.8	0.4

● 同世代の未婚男性を調査した「ことぶき科学情報 vol.51 2009年20代・30代未婚男性の意識調査」も、ございます。ご希望される場合はご連絡ください。

— 目 次 —

2009年20代・30代未婚女性の現在

- 自分は植物的というよりも動物的 51.4%
- 自殺を考えたことがある 49.8%

2009年20代・30代未婚女性の恋愛に対する意欲

- 交際相手はいない 63.3%
- 交際相手はほしくない 23.1%

2009年20代・30代未婚女性の恋愛観

- 好きな人から告白されたい 90.4%
- 恋人に先に告白したのは相手 72.1%

2009年20代・30代未婚女性の男性観

- 女性と一緒に寝ても何もしない男性を「受け入れる」60.9%
- 男性の友人がいる 67.6%

2009年20代・30代未婚女性の結婚意思

- 結婚はする 71.9%
- 結婚によって人生の楽しみは多くなる 62.7%

2009年20代・30代未婚女性の結婚相手の条件

- 結婚相手に重視することは 収入よりも家事・育児への協力姿勢
- 結婚相手の理想年齢は年上
- 30代は、もう仕事に疲れた？ 結婚後は専業主婦 23.6%、フルタイムは 12.6ポイントも減少

2009年20代・30代未婚女性の夫婦の形

- 結婚相手との理想のパートナー関係は「友だち型」 67.8%
- 結婚しても自分の部屋がほしい 79.4%

2009年20代・30代未婚女性と新政権

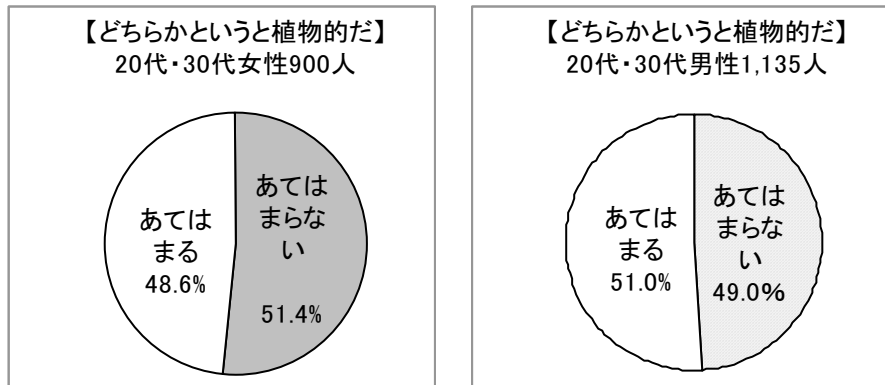
- 夫婦別姓容認率 73.1%
- 新政権に期待することは 年金問題 49.6%

調査あとがき 「ことぶき科学情報」バックナンバー一覧

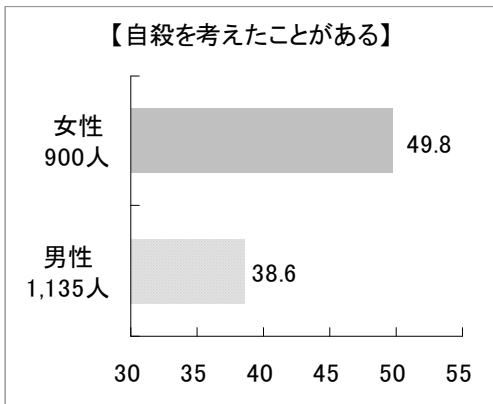
■自分は植物的というよりも動物的 51.4%

今回の調査対象者である20代・30代の未婚女性900人は自分自身のことをどのように捉えているのだろうか。「自分は動物的ではなく、どちらかという植物的のほうだ」との問いに対し、51.4%が「あてはまらない＝動物的だ」と分析している。これは20代(450人)52.9%、30代(450人)50.0%で、年代差はさほど見られない。一方、6月に調査した20代・30代の未婚男性の結果は同じ問いに対し、「あてはまらない＝動物的だ」という回答が49.0%。女性のほうが「動物的」と回答する率がわずかながら上回る結果となった。

現在、若者は、男性は「草食系」、女性は「肉食系」と称されている。今回の設問は「植物的」、「動物的」で聞いており、多少ニュアンスは異なるかもしれないが、女性の方が自らを能動的であると捉えている割合が高い傾向にある。



■自殺を考えたことがある 49.8%

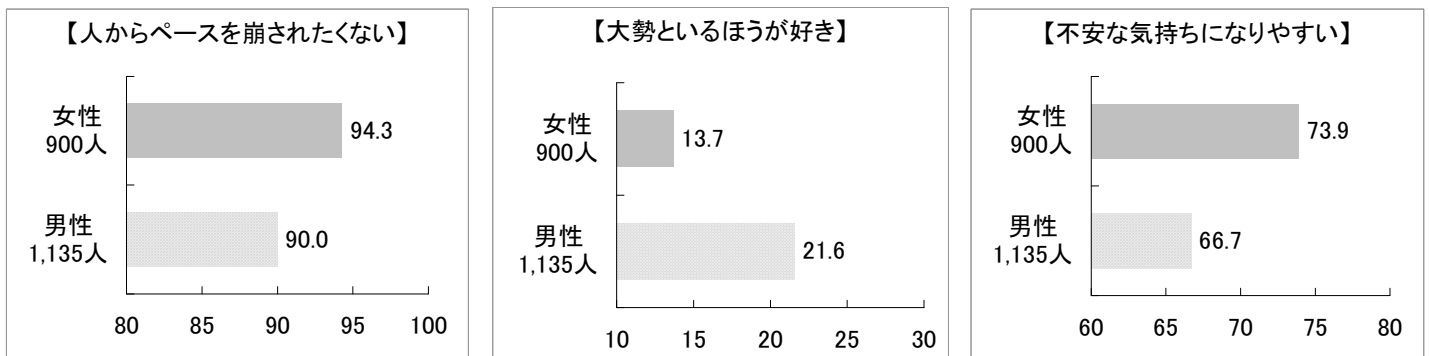


青年層の自殺が急増しているが、今回の調査対象者も49.8%が「自殺を考えた」(20代52.7% 30代46.9%)経験を持つ。30代よりも20代のほうが高く、今後のこの数字の行方は気になるところである。男性と比較すると、女性のほうが11.2ポイント高い。

「人からペースを崩されたくない」は94.3%(20代93.6% 30代95.1%)とマイペース志向は男性よりも強い。他に男性と比較すると、「大勢というほうが好き」13.7%(20代16.2% 30代11.1%)は男性より低く、「不安な気持ちになりやすい」73.9%(20代80.0% 30代67.8%)は女性のほうが高い。

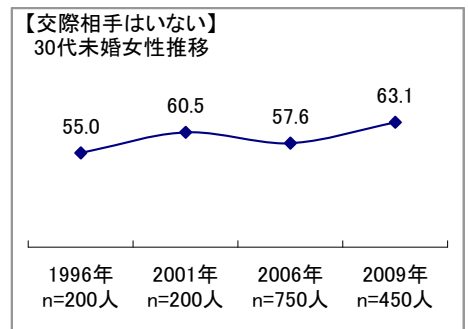
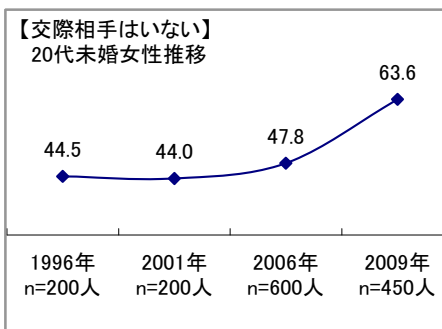
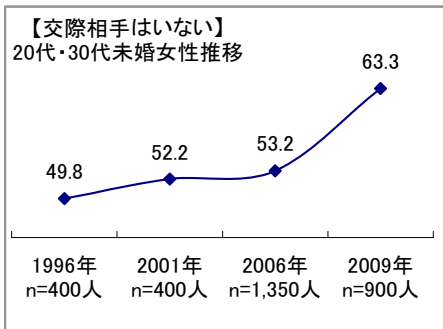
自らを「動物的」(＝能動的)と評しながらも、不安な気持ちを抱きながらも、個を選択している青年女性の姿がうかがえる。

2009年20代・30代未婚女性の恋愛に対する意欲

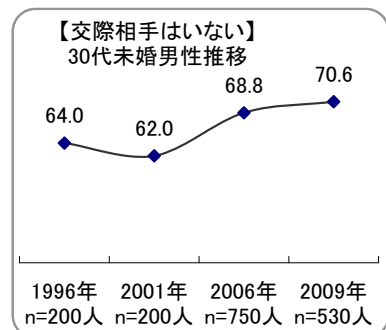
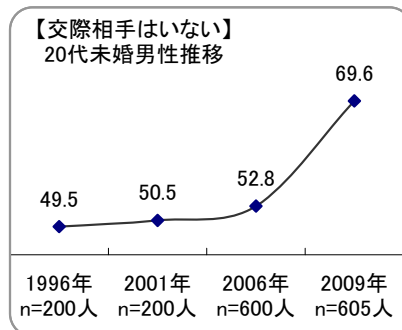
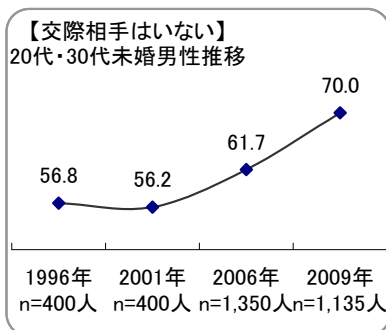


■ 交際相手はいない 63.3%

20代・30代未婚女性(900人)に交際相手について聞いたところ、全体の63.3%が「現在交際相手がいらない」と回答した。過去の未婚女性の交際相手がいらない割合推移は下図の通りで、男性よりは割合が低いものの、09年の20代女性の上昇率は急上昇し、過去最悪となっている。



<参考: 男性推移>



■ 交際相手はほしくない 23.1%

「今は交際相手がいらないものの、交際相手がほしい」と思っている未婚女性は全体で 40.2%。「ほしくない」と思う未婚女性は 23.1%で、年代の差は見られない。それぞれの理由は下表の通り。

20代・30代ともに「ひとりで楽しい」が交際相手はほしくない理由の1位である。ここでも個を守る姿が見受けられる。

単一回答	%	全体	20代	30代
交際相手がいる		36.7	36.5	37.0
交際相手がほしい		40.2	39.1	41.3
交際相手はほしくない		23.1	24.4	21.7
母数		900人	450人	450人

単一回答	%	全体	20代	30代
交際相手がいる		30.0	30.4	29.4
交際相手がほしい		48.2	48.1	48.3
交際相手はほしくない		21.8	21.5	22.3
母数		1,135人	605人	530人

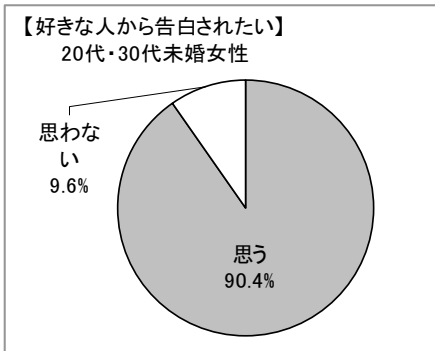
単一回答	%	全体	20代	30代
努力をしている		23.2	25.6	21.0
努力をしていない		76.8	74.4	79.0
母数		362人	176人	186人

単一回答	%	全体	20代	30代
努力をしている		25.4	27.1	23.4
努力をしていない		74.6	72.9	76.6
母数		547人	291人	256人

20・30代未婚女性					(交際相手がほしくないとの回答者) ほしくない理由					(交際相手がほしくないとの回答者) ほしい理由							
複数回答	上位4項目	%	全体	20代	30代	複数回答	上位4項目	%	全体	20代	30代	複数回答	上位4項目	%	全体	20代	30代
	ひとりで楽しい	67.3	67.3	70.9	63.3		いれば楽しい	66.3	66.3	65.9	66.7		いれば楽しい	66.3	66.3	65.9	66.7
	他に時間を使いたい	54.3	54.3	54.5	54.1		自分が向上する	49.4	49.4	54.0	45.2		自分が向上する	49.4	49.4	54.0	45.2
	結婚したいと思わない	42.3	42.3	30.0	56.1		早く結婚したい	37.3	37.3	38.6	36.0		早く結婚したい	37.3	37.3	38.6	36.0
	人との交際が苦手	40.4	40.4	38.2	42.9		いないとさびしい	32.6	32.6	35.8	29.6		いないとさびしい	32.6	32.6	35.8	29.6
	母数		208人	110人	98人		母数		362人	176人	186人		母数		362人	176人	186人

2009年 20代・30代未婚女性の恋愛観

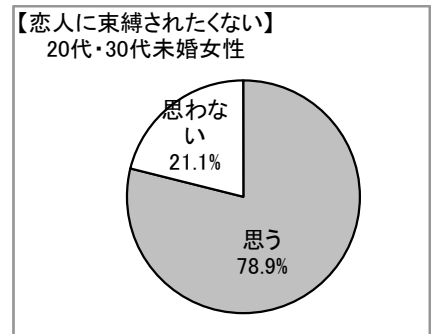
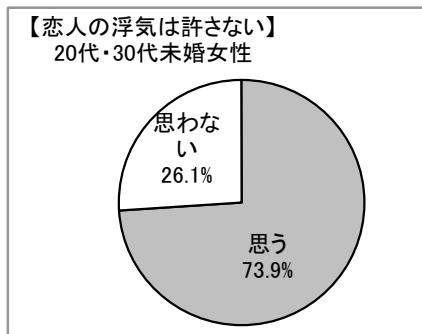
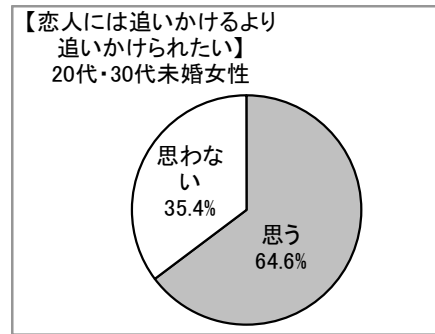
■好きな人から告白されたい 90.4%



20代・30代未婚女性全員(900人)の「恋愛観」を聞くと、90.4%が「好きな人から告白されたい」と回答した(20代90.0% 30代90.9%)。また、「追いかけるより追いかけてほしい」も64.6%と高く、恋愛観においては、男性主導を希望していることがうかがえる。

73.9%が「恋人の浮気は許さない」と答えながらも、「恋人に束縛されたくない」も78.9%と、相手の誠意を求めながらも、自らは束縛されるのを嫌う意識も見える。

20代・30代の女性の恋愛観は、形のうえでは男性主導、精神的には女性主導を理想としているといえそうだ。



本年6月に調査した20代・30代未婚男性の結果は右表の通り。女性の恋愛観とほぼ一致している。互いに、形は相手主導、精神的には自主主導の恋愛観を持っていることがわかる。

恋人には追いかけるより追いかけてほしい	60.2
恋人の浮気は許さない	73.5
恋人に束縛されたくない	73.0
母数	1,135人

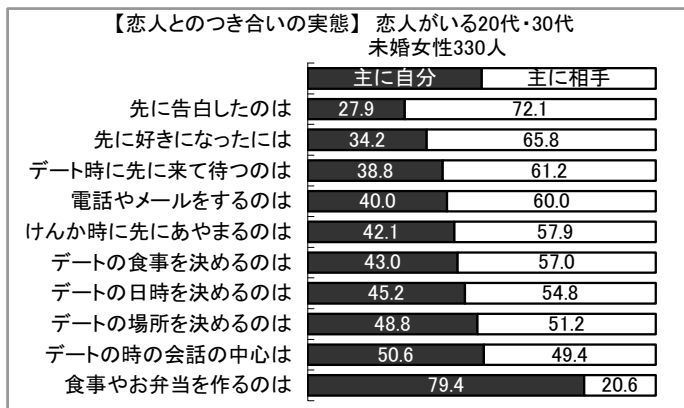
■先に告白したのは相手 72.1%

恋人がいると回答した330人に「恋人とのつき合い方」を聞いた。

「先に告白したのは相手」と72.1%が回答したのをはじめ、「先に好きになった」、「デート時に先に来る」、「電話やメールをする」、「けんかしたときに先にあやまる」、その他、デートの食事、日時、場所の決定はすべて主に相手=男性側と回答している。

恋愛観と同様、実際の恋愛は、少なくとも表面上は男性がリードしている形を取っているようだ。

20.6%が「食事やお弁当を作るのは相手」と回答。男性の調査で「食事やお弁当を作るのは自分」20.3%とほぼ一致している。



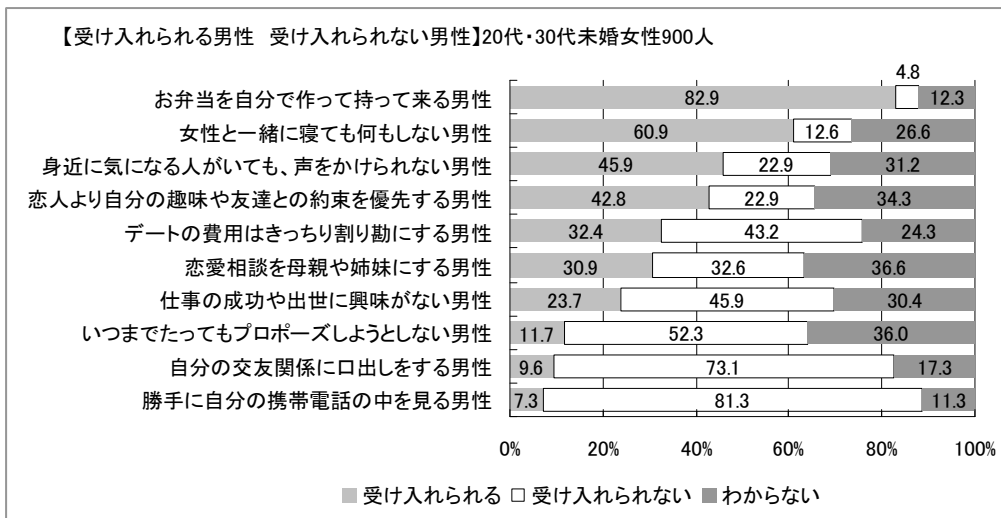
	%	主に自分
先に告白したのは	74.1	
先に好きになったには	63.2	
デート時に先に来て待つのは	69.7	
電話やメールをするのは	49.4	
けんか時に先にあやまるのは	68.5	
デートの食事を決めるのは	68.5	
デートの日時を決めるのは	72.9	
デートの場所を決めるのは	72.1	
デートの時の会話の中心は	42.6	
食事やお弁当を作るのは	20.3	
母数		184人

■女性と一緒に寝ても何もしない男性を「受け入れる」60.9%

20代・30代未婚女性全員(900人)に、“恋愛や結婚相手として考えた場合、受け入れられる男性、受け入れられない男性のタイプ”を聞いたところ、「勝手に自分の携帯電話の中を見る」、「自分の交友関係に口出しする」男性を“受け入れられない”と回答する率が非常に高かった。女性は、恋愛・結婚相手であってもプライバシーに進入することを許さない傾向にある。

「いつまでたってもプロポーズしない」、「仕事の成功に興味がない」男性もNGと4割以上が回答。積極的ではない男性を受け入れる意志は少ない。

しかしながら、「女性と一緒に寝ても何もしない男性」を受け入れる女性は60.9%と高く、女性においても淡泊な関係を許容する傾向があるようだ。



■男性の友人がいる 67.6%

20代・30代未婚女性(900人)の67.6%(608人)は男性の友人を持っている。その割合は20代に特化すると70.4%と高い(30代64.7%)。片や、男性の、女性の友人を持つ割合は59.0%(670人 20代63.0% 30代54.5%)。女性のほうが多くの異性の友人を持っている。

男性の友人を持つ608人にその関係を聞くと、「メールで連絡を取り合う」が最も多く、「恋愛対象としてみていない」、「時々合っておしゃべりする」と続く。恋愛相談をしたり、遊びにいたり、話をしたり、と総じて同性の友人と同様の関係を構築している点では男性と傾向は一致している。

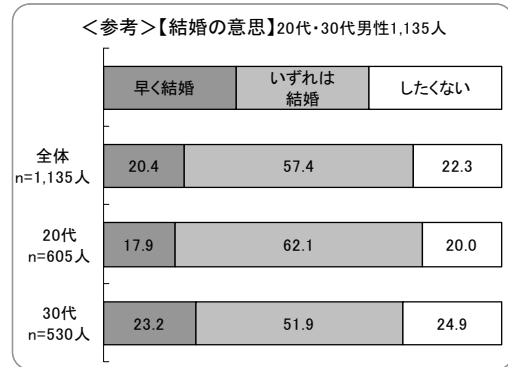
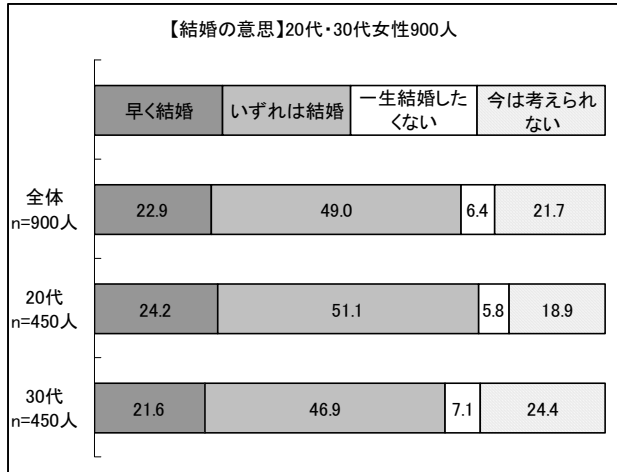
「恋愛対象にしているかもしれない」といった、いわゆる“恋愛候補”友人は、男性は51.6%と5割を僅かに超えているのに対して、女性は42.1%と9.5ポイント下回っている。女性においては友人関係の男性はあくまでも友人であり、恋愛に発展する可能性は少ないことがうかがえる。

20代・30代未婚者 異性の友人の関係	女性	男性	20代女性	30代女性
いる・いない2択で、いるの割合 %				
メールで連絡を取り合う	95.6	92.8	94.3	96.9
恋愛対象としてみていない	92.3	87.2	92.1	92.4
時々合っておしゃべりする	91.8	89.0	91.5	92.1
電話で連絡しあう	78.1	66.9	72.9	83.8
恋愛相談ができる	69.2	57.6	65.6	73.2
買い物や遊びに行く	64.5	58.4	62.1	67.0
自宅に招いたり相手の家に出かけられる	57.2	45.5	54.6	60.1
親友と呼べる関係	43.4	41.9	37.9	49.5
恋愛対象にしているかもしれない	42.1	51.6	42.9	41.2
電話やメールだけの付き合い	21.5	19.6	20.5	22.7
母数	全体900人のうち、 異性の友人がいる608人	全体1,135人のうち、 異性の友人がいる670人	317人	291人

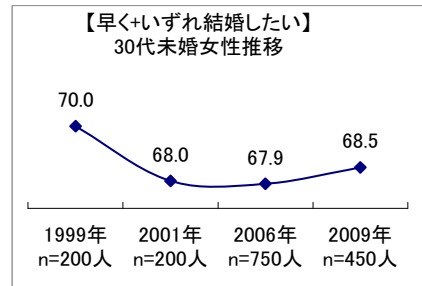
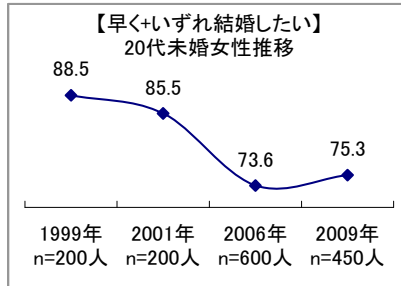
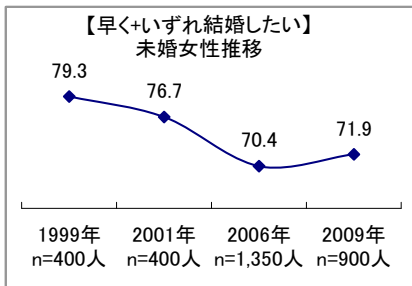
■結婚はする 71.9%

現在の交際状況は低調であるものの、20代・30代未婚女性(900人)の71.9%は「早く」または「いずれは」結婚したいと考え、「結婚したくない」、「今は考えられない」との回答は28.1%である。

30代よりも20代のほうが結婚意思は強く、6.8ポイントの差が生じている(20代75.3% 30代68.5%)。



10年間の結婚意思推移は下表の通り。1999年時点では20代の結婚意思は88.5%と高かった。2006年には大きく低下したものの、その後は微増し続けている。



■結婚によって人生の楽しみは多くなる 62.7%

「結婚によって得ることが多い」、「結婚によって人生の楽しみは多くなる」はそれぞれ6割が肯定し、結婚することにプラスの価値を見出している。しかし、30代と比べると20代が高く、20代と30代の間には意識差が見られる。また、男性が7割の肯定率を示しているのに対して、女性は全体的に約10ポイント低い結果となった。

「結婚するなら早婚のほうが得」といった考えの肯定は3割強。男性では年代差はみられなかったが、今回の女性の調査では、30代のほうが20代よりも肯定率が上回っている。

「現状の生活では結婚相手との出会いはおそくない」と62.9%が思いながらも、58.6%が「きっといつかは運命的な出会い」を待っている。特に20代の運命論者は62.2%と高い。

結婚に対する考え方 (思う・思わないの2択で思うの回答)	女性			男性		
	単数回答	%		全体	20代	30代
結婚によって得ることが多いと思う	62.2	67.6	56.9	72.4	76.4	67.9
結婚によって人生の楽しみは多くなる	62.7	66.2	59.1	73.9	74.5	73.2
結婚するなら早婚のほうが得	30.6	29.1	32.0	39.8	39.8	39.8
現状の生活では結婚相手との出会いはおそくない	62.9	61.6	64.2	-	-	-
きっといつかは結婚する相手との運命的な出会いがあると思う	58.6	62.2	54.9	-	-	-
母数	900人	450人	450人	1,135人	605人	530人

**2009年20代・30代未婚女性の結婚相手の条件**

20代・30代女性 結婚相手を選ぶ際に重視すること				
重視する・重視しないの2択で「重視する」の回答 %	全体	20代	30代	年代差
性格・人柄	98.4	98.0	98.9	-0.9
愛情	96.2	95.3	97.1	-1.8
健康	90.1	88.9	91.3	-2.4
家事・育児への協力姿勢	87.6	86.0	89.1	-3.1
収入	75.1	74.2	76.0	-1.8
職業	61.2	64.7	57.8	6.9
容姿・外見	60.2	61.3	59.1	2.2
婚姻歴	51.3	55.3	47.3	8.0
身長	33.9	38.0	29.8	8.2
学歴	28.4	31.1	25.8	5.3
母数	900人	450人	450人	

20代・30代女性 結婚相手の理想					
年齢	単数回答 %	全体	20代	30代	年代差
5歳以上年下	6.7	4.0	9.3	-5.3	
5歳未満の年下	20.0	15.3	24.7	-9.4	
ほぼ同年齢	43.6	46.2	40.9	5.3	
5歳未満の年上	47.4	50.9	44.0	6.9	
5歳以上の年上	31.2	35.3	27.1	8.2	
特に気にしない	35.1	31.8	38.4	-6.6	
母数	900人	450人	450人		

■結婚相手に重視することは収入よりも家事・育児への協力姿勢

全員(900人)に結婚相手の条件を聞くと、重視する項目は「性格」、「愛情」に次いで、「健康」があげられた。

「家事・育児への協力姿勢」を重視するという回答は87.6%と高率であり、「夫婦の共同意識」を持っていることがわかる。

「収入」も75.1%と高率であるが、それに加えて性格、愛情はいうまでもなく、健康や、家事・育児への協力姿勢についても20代・30代未婚女性は重視している。

■結婚相手の理想年齢は年上

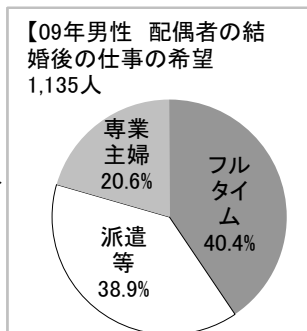
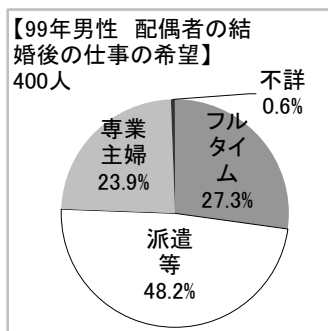
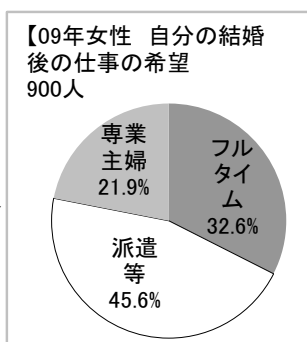
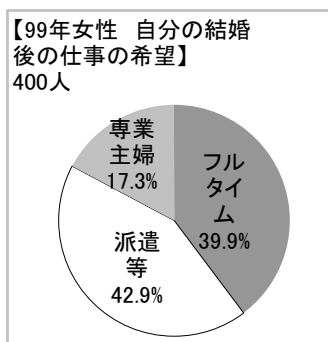
20代・30代未婚女性全員(900人)が考える結婚相手の理想年齢は、左表の通り。

現在同じ年夫婦が増加しているが、理想としては「同年齢」よりも、「年上」を志向している。

■30代は、もう仕事に疲れた？ 結婚後は専業主婦 23.6%、フルタイムは12.6ポイントも減少

結婚後の仕事に対する希望では「派遣等で働き、家計を助けたい」が45.6%と高い。これは10年前の99年と変わらない。本年6月調査で男性が「配偶者にはフルタイムで働いてほしい」が急増し、4割に達したのに対して、女性のフルタイム希望は99年時39.9%から本年は32.6%と7.3ポイント低くなるなど、結婚後の女性の働き方に対する希望は女性と男性の間に差が生じている。

専業主婦希望は21.9%。99年調査時の17.3%から4.6ポイント上昇した。特に、10年以上働いていると考えられる30代女性では、フルタイム就労希望が99年の調査時に比べ12.6%も減少し、専業主婦志向(4.2%増)や派遣就労等の志向(8.4%増)の高まりが目立つ。増える一方の仕事の責任や負荷に耐えかねている女性の姿がうかがえる。



女性)結婚後の仕事の希望			
20代	99年	09年	
	単数回答 %	200人	450人
フルタイムで働き続けたい	33.3	31.3	
派遣等で家計を支える	51.5	48.4	
専業主婦になりたい	15.3	20.2	
30代	99年	09年	
	単数回答 %	200人	450人
フルタイムで働き続けたい	46.4	33.8	
派遣等で家計を支える	34.3	42.7	
専業主婦になりたい	19.4	23.6	

配偶者の結婚後仕事の希望			
20代	99年	09年	
	単数回答 %	200人	605人
フルタイムで働いてほしい	24.7	36.9	
派遣等で家計を支えてほしい	46.9	38.0	
専業主婦でいてほしい	27.8	25.1	
不詳	0.6		
30代	99年	09年	
	単数回答 %	200人	530人
フルタイムで働いてほしい	29.9	44.5	
派遣等で家計を支えてほしい	49.4	40.0	
専業主婦でいてほしい	20.0	15.5	
不詳	0.5		

■結婚相手との理想のパートナー関係は「友だち型」67.8%

理想のパートナー関係としては67.8%が「友だち夫婦型(公平・平等型)」を選択した。男性と比較すると「かかあ天下天下型(妻主導型)」志向がやや高くなっている。

家事・分担の希望もすべての項目で「協力して分担」が主となっているが、「収入を得る」は「夫中心」を選択する割合が男性に比べて高い。また、「家計のやりくり」は「妻中心」を選択する割合は45.3%と高く、男性との間に27.5ポイントの差が見られた。

女性) 結婚相手との理想のパートナー関係				男性) 結婚相手との理想のパートナー関係					
	%	全体	20代	30代		%	全体	20代	30代
亭主関白型		13.4	16.2	10.7	亭主関白型		13.6	15.7	11.1
友達型		67.8	66.2	69.3	友達型		73.7	71.1	76.6
かかあ殿下型		18.8	17.6	20.0	かかあ殿下型		12.8	13.2	12.3
		900人	450人	450人			1,135人	605人	530人

女性) 900人 夫婦生活の分担希望				男性) 1,135人 夫婦生活の分担希望			
	夫中心	分担	妻中心		夫中心	分担	妻中心
子どものしつけ、教育	2.0	90.0	8.0	子どものしつけ、教育	3.1	89.8	7.1
乳幼児の育児	0.6	73.2	26.2	乳幼児の育児	1.2	76.6	22.2
洗濯	0.8	48.4	50.8	洗濯	2.6	69.7	27.7
掃除	2.8	63.9	33.3	掃除	4.4	74.8	20.8
炊事	0.9	50.3	48.8	炊事	2.3	63.0	34.7
家計のやりくり	1.6	53.1	45.3	家計のやりくり	6.3	75.9	17.8
収入を得る	56.2	43.7	0.1	収入を得る	40.4	58.1	1.5

■結婚しても自分の部屋がほしい 79.4%

「結婚しても自分の部屋がほしい」といった個人の空間を確保する意識は男性同様に高い。

「個性を犠牲にしたくない」、「休日是一緒に過ごしたい、とは思わない」、「寝室は一緒が良いとは思わない」は男性と比較して女性の回答率が高い。女性の、「プライベートは独立をしたい」気持ちが男性よりも強いことがわかる。

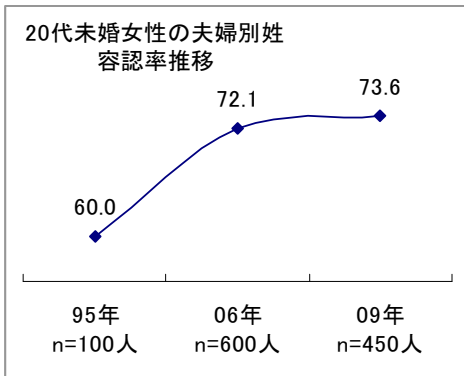
結婚生活に関する考え方 (女性・男性比較 思う・思わないの2択で「思う」の回答)				
全体	%	女性	男性	
結婚しても自分の部屋がほしい		79.4	83.5	4.1
結婚後は結婚指輪をしたくない		19.3	42.6	23.3
家庭のために自分の個性等を犠牲にしたくない		47.8	38.7	-9.1
休日は夫婦一緒に過ごしたい、とは思わない		30.6	22.8	-7.8
結婚後は財布を統一したい		57.0	54.0	-3.0
夫婦の寝室は一緒が良いとは思わない		31.2	24.9	-6.3
母数		900人	1,135人	
20代	%	女性	男性	
結婚しても自分の部屋がほしい		79.6	84.3	4.7
結婚後は結婚指輪をしたくない		15.3	35.4	20.1
家庭のために自分の個性等を犠牲にしたくない		48.2	37.0	-11.2
休日は夫婦一緒に過ごしたい、とは思わない		27.6	20.0	-7.6
結婚後は財布を統一したい		57.8	58.0	0.2
夫婦の寝室は一緒が良いとは思わない		27.1	22.0	-5.1
母数		450人	605人	
30代	%	女性	男性	
結婚しても自分の部屋がほしい		79.3	82.6	3.3
結婚後は結婚指輪をしたくない		23.3	50.6	27.3
家庭のために自分の個性等を犠牲にしたくない		47.3	40.6	-6.7
休日は夫婦一緒に過ごしたい、とは思わない		33.6	26.0	-7.6
結婚後は財布を統一したい		56.2	49.4	-6.8
夫婦の寝室は一緒が良いとは思わない		35.3	28.3	-7.0
母数		450人	530人	

■夫婦別姓容認率 73.1%

法律婚、別居婚、事実婚、夫婦別姓、離婚、同棲など結婚のあり方は多様化している。それぞれについて容認するか、しないかを20代・30代女性全員(900人)に聞いたところ、「離婚」は約9割が容認した結果となった。その他「夫婦別姓」、「同棲」の容認率は高いことが分かった。「法律婚」容認率は6割。男性と比較すると16.8ポイント低い。

「別居婚」は項目のなかでは最も低い結果となったものの、男性と比較すると2倍近くが容認している。ここにも女性の独立志向の高さが表れている。

全体	女性	男性		20代	女性	男性		30代	女性	男性	
法律婚	60.3	77.1	-16.8	法律婚	67.8	80.3	-12.5	法律婚	52.9	73.4	-20.5
別居婚	43.8	23.7	20.1	別居婚	38.9	23.1	15.8	別居婚	48.7	24.3	24.4
事実婚	47.7	41.1	6.6	事実婚	43.3	39.8	3.5	事実婚	52.0	42.6	9.4
夫婦別姓	73.1	56.7	16.4	夫婦別姓	73.6	55.0	18.6	夫婦別姓	72.7	58.5	14.2
離婚	90.6	81.1	9.5	離婚	88.4	79.0	9.4	離婚	92.7	83.6	9.1
同棲	71.1	76.4	-5.3	同棲	76.0	79.7	-3.7	同棲	66.2	72.6	-6.4
母数	900人	1,135人		母数	450人	605人		母数	450人	530人	



女性の「夫婦別姓」の容認率は73.1%。男性56.7%と比較すると極めて高い。また、20代女性に特化すると、夫婦別姓問題が盛んに展開されていた1995年時から13.6ポイント、容認率は上昇している。

夫婦別姓の法改正については現在新政権のもと、注目が高まっているところであるが、今回の結果からも世の中の未婚女性からも注目の高いことが分かる。今後の行方が気になるところである。

■新政権に期待することは 年金問題 49.6%

20代・30代未婚女性(900人)の新政権(民主党政権)に期待することの1位は「年金問題」49.6%であった。次いで「ずっと独身でも安心して生活ができる施策」27.8%となっている。23.4%は「特に期待していない」と回答した。

「ずっと独身でも安心して生活ができる施策」は、20代18.7%に対して30代は36.9%と高い結果となっている。「育児支援」、「出産支援」はそれぞれ10%強。全体的に、結婚後の生活を見据えての施策ではなく、現状のなかで将来に対する不安に関する施策を期待している結果となっている。

	全体	20代	30代
年金問題	49.6	47.3	51.8
ずっと独身でも安心して生活ができる政策	27.8	18.7	36.9
特に期待していない	23.4	25.3	21.6
女性の就労支援政策	21.8	18.0	25.6
格差是正政策	21.2	19.1	23.3
若者の就労支援政策	21.0	30.2	11.8
家庭生活と仕事の調和を図るワーク・ライフ・バランス政策	16.8	16.2	17.3
育児支援政策	15.7	15.3	16.0
出産支援政策	11.1	11.3	10.9
子供の教育支援政策	8.9	11.8	6.0
インフルエンザ対策	7.0	5.6	8.4
シングル・マザー(ファザー)の子育て支援政策	5.3	4.7	6.0
母数	900人	450人	450人

## 調査あとがき 株式会社オーネット

今回の調査対象者は 20 歳から 39 歳の未婚の女性です。6 月調査の同世代男性の意識との比較を目的としたものです。

男性は、多方面でのコミュニケーションを良好にとりながらも個を守る、といった、いわゆる「草食系」意識が幅広い年代で見られました。一方女性は、というと、男性の友人を多く持つなど多方面で良好なコミュニケーションをとりながらも、個を守る、という面では男性と変わりなく、男性と同様に「草食化」しています。こうしてみると、「草食化」は現在の若者一般にあてはまる傾向のようです。

女性の調査で気になるのは、現在の生活に満足感を持っている、気持ちに張り合いを持っている、生活に精神的な豊かさを持っている、との回答はすべて 4 割程度、経済的豊かさを感じている割合に至っては 3 割弱と低い結果となっていることで、人生のなかで、最も活力がある年齢層である若い女性の意識にしては、少し寂しい感があります。

自殺を考えたことがある女性は 49.8%と、半数近くが死を意識した経験があり、それは男性よりも多い、といったことを考えると、何が彼女らを苦しめているのか、ということも考える必要があります。

不況により結婚願望は高まるものの、結婚に対する不安も上昇し、結婚になかなか至らない傾向があることも確かです。

実際に今回の調査でも、結婚の意思は 90 年代の勢いこそないものの、3 年前の 2006 年と比較すると微増しましたが、交際相手がいる女性は減少。また、結婚に向けての努力も、これまでの調査同様、努力をしていないとの回答が高く、すぐに結婚ができる状況ではありません。

この状況では、結婚件数が右肩上がりでも上昇していくことを現段階で予想することは難しいといえるでしょう。

結婚形態を見ると、離婚に対する容認率は 9 割と非常に高率となり、20 代・30 代の未婚女性のなかでは、結婚は必ずしも永久的なものではない、という考え方は今や一般化しつつあるようです。また、標準的な結婚形態である法律婚の容認率は高いものの 6 割程度にとどまったのは、離婚という選択を見据えた結婚を考え、法律婚に対する何らかのリスクを感じている表れともいえます。

結婚後の夫婦のかたちでは、「友だち夫婦」を志向しながらも、家事等は女性を中心として考える割合も高く、結婚後の仕事もパート等で家計を助けたいなど、いわゆる「内助の功」を考える意識も持っているようにも見られます。結婚に対する不安も持ちながらも、それでも、パートナーを得て家庭を築きたい、安心したい、個も守りたい、といった女性の意識が、今回、夫婦別姓や別居婚容認率が男性と比較して高くなった一つの理由ともいえるでしょう。

結婚年齢や離婚に関する民法改正論が現在展開されており、また、民主党政権のもと、1998 年に一度廃案になった夫婦別姓導入制度を来年も国会に提出しようという動きが出ていますが、結婚をめぐる社会体制のインフラ作りはこの時期にきて、再度見直す必要性があるのかもしれない。

リーマンショック後の社会状況の変化によって、彼女らがなんらかの閉塞感を持っていることは否めません。ただ、単に「不況だから」を言い訳に続けているわけにはいきませんし、社会全体で閉塞感の改善を図ることが求められているようです。

(2009 年 10 月 株式会社オーネット サービス部 篠塚涼子)

## 調査あとがき 株式会社オーネット

今回の調査対象者は 20 歳から 39 歳の未婚の女性です。6 月調査の同世代男性の意識との比較を目的としたものです。

男性は、多方面でのコミュニケーションを良好にとりながらも個を守る、といった、いわゆる「草食系」意識が幅広い年代で見られました。一方女性は、というと、男性の友人を多く持つなど多方面で良好なコミュニケーションをとりながらも、個を守る、という面では男性と変わりなく、男性と同様に「草食化」しています。こうしてみると、「草食化」は現在の若者一般にあてはまる傾向のようです。

女性の調査で気になるのは、現在の生活に満足感を持っている、気持ちに張り合いを持っている、生活に精神的な豊かさを持っている、との回答はすべて 4 割程度、経済的豊かさを感じている割合に至っては 3 割弱と低い結果となっていることで、人生のなかで、最も活力がある年齢層である若い女性の意識にしては、少し寂しい感があります。

自殺を考えたことがある女性は 49.8%と、半数近くが死を意識した経験があり、それは男性よりも多い、といったことを考えると、何が彼女らを苦しめているのか、ということも考える必要があります。

不況により結婚願望は高まるものの、結婚に対する不安も上昇し、結婚になかなか至らない傾向があることも確かです。

実際に今回の調査でも、結婚の意思は 90 年代の勢いこそないものの、3 年前の 2006 年と比較すると微増しましたが、交際相手がいる女性は減少。また、結婚に向けての努力も、これまでの調査同様、努力をしていないとの回答が高く、すぐに結婚ができる状況ではありません。

この状況では、結婚件数が右肩上がりでも上昇していくことを現段階で予想することは難しいといえるでしょう。

結婚形態を見ると、離婚に対する容認率は 9 割と非常に高率となり、20 代・30 代の未婚女性のなかでは、結婚は必ずしも永久的なものではない、という考え方は今や一般化しつつあるようです。また、標準的な結婚形態である法律婚の容認率は高いものの 6 割程度にとどまったのは、離婚という選択を見据えた結婚を考え、法律婚に対する何らかのリスクを感じている表れともいえます。

結婚後の夫婦のかたちでは、「友だち夫婦」を志向しながらも、家事等は女性を中心として考える割合も高く、結婚後の仕事もパート等で家計を助けたいなど、いわゆる「内助の功」を考える意識も持っているようにも見られます。結婚に対する不安も持ちながらも、それでも、パートナーを得て家庭を築きたい、安心したい、個も守りたい、といった女性の意識が、今回、夫婦別姓や別居婚容認率が男性と比較して高くなった一つの理由ともいえるでしょう。

結婚年齢や離婚に関する民法改正論が現在展開されており、また、民主党政権のもと、1998 年に一度廃案になった夫婦別姓導入制度を来年も国会に提出しようという動きが出ていますが、結婚をめぐる社会体制のインフラ作りはこの時期にきて、再度見直す必要性があるのかもしれない。

リーマンショック後の社会状況の変化によって、彼女らがなんらかの閉塞感を持っていることは否めません。ただ、単に「不況だから」を言い訳に続けているわけにはいきませんし、社会全体で閉塞感の改善を図ることが求められているようです。

(2009 年 10 月 株式会社オーネット サービス部 篠塚涼子)